

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

平成30年12月

八千代市教育委員会

【公表にあたって】

本年度における八千代市の児童生徒の調査結果の概要とその分析、また、これからの取組を公表いたします。

本公表は、「平成30年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）に関する実施要領」の「IV 本調査、5. 調査結果の取扱い」における「(4) 調査結果の活用」に基づいて行うものです。よって、本公表が目指すところは、保護者や地域の方々のご理解とご協力をいただき、子どもたちの学習状況の改善を図っていくことです。

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、今後、調査結果を活用した改善方策の実施に取り組んでまいります。

【平成30年度における調査の概要】

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日 平成30年4月17日（火）

3 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年

4 調査内容 (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
・主として「知識」に関する問題
・主として「活用」に関する問題
(2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査
・児童生徒に対する調査
・学校に対する調査

結果を受けて「八千代市としての取組」

□教職員の資質向上

- ・教職員の資質を高め、児童生徒（子ども）一人一人を大切にしたいきめ細やかな授業を行う。

□言語活動の充実

- ・国語科はもとより、さまざまな教育活動を通して子どもたちが思考する時間を確保し、一層、言語活動（話す・聞く・書く・読む）を充実させる。
- ・新聞を活用した授業づくりに取り組む。

□読書活動の充実

- ・各学校で朝の読書の時間など、読書の時間を充実させ、読書を奨励する。
- ・教員だけではなく、地域の方々にも支援いただき、読み聞かせなどを充実させていく。

□理数教育の充実

- ・理科や算数・数学に対する関心や学習意欲を高める授業づくりに取り組む。

□各学校と家庭・地域社会の連携

- ・各学校が家庭・地域社会と連携し、地域の中で活躍できる子どもの育成を目指す。
- ・各学校が家庭・地域社会と連携し、道徳教育・人権教育の充実を図る。

□分析結果の活用

- ・各学校において分析した成果や課題を、全教職員で共有するとともに、保護者へ周知していく。

「教科に関する調査」の結果の概要と分析

*文末の()内は、「平均正答率(本市ー全国)」を表す

小学校・国語

〈成果〉八千代市の児童がよくできた問題

- 『学年別配当漢字表に示されている漢字を文の中で正しく使う』(81.1%－77.8%)
- 『互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと』(80.0%－77.5%)

※「読むこと」は、全国の平均正答率を 100 とした場合の本市の相対値は 101.4 であった。学習において適切な言語活動を設定している割合が高いことが平均正答率を上回った要因だと考えられる。

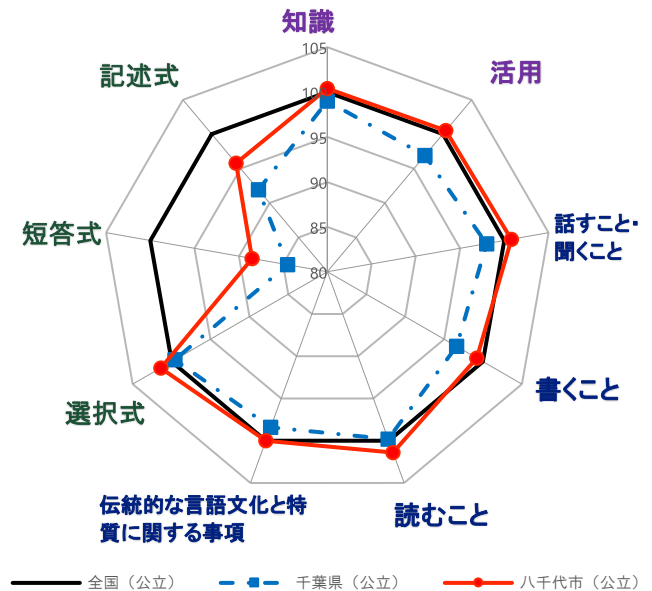
〈課題〉八千代市の児童が苦手とした主な問題

- 『文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く』(31.4%－35.5%)
- 『話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる』(31.9%－33.8%)

※「問題形式」では、短答式・記述式で解答する設問に課題が見られた。全国の平均正答率を 100 とした場合の本市の相対値は、短答式 88.4 (対象問題 1 問)、記述式 95.8 (対象問題 3 問) であった。

小学校	八千代市	全国
国語 A	71	71
国語 B	55	55

※表内の数字は小数第 1 位を四捨五入した平均正答率
全国(公立)の平均正答率を 100 とした場合の相対値



中学校・国語

〈成果〉八千代市の生徒がよくできた問題

- 『語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う』(73.7%－72.6%)
- 『文章の構成や展開について自分の考えをもつ』(68.5%－64.3%)

※「話すこと・聞くこと」の分野では全国の平均正答率を 100 とした場合の本市の相対値は 101.7 であった。対話的な学び(グループ学習等)を授業の中に積極的に取り入れ、話す機会・聞く機会が増加したことが成果につながったと考えられる。

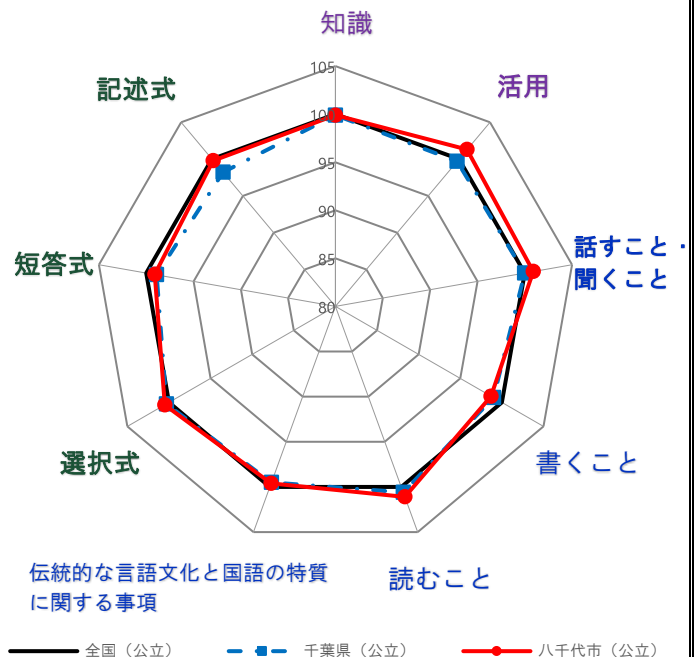
〈課題〉八千代市の生徒が苦手とした主な問題

- 『歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す』(57.2%－63.0%)
- 『目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く』(19.9%－22.3%)

※領域では「書くこと」の分野で、条件のある中で文章を書くことに課題が見られた。書かせるときの負荷(字数制限や表現の工夫を入れて書くこと等)が少ないことが原因であると考えられる。

中学校	八千代市	全国
国語 A	76	76
国語 B	62	61

※表内の数字は小数第 1 位を四捨五入した平均正答率
全国(公立)の平均正答率を 100 とした場合の相対値



小学校・算数

〈成果〉八千代市の児童がよくできた問題

- 『示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる』(72.8%－70.5%)
- 『示された考え方を解釈し、それを新たな問題場面に適用して表に整理し、条件に合うものを適切に判断することができる』(51.4%－47.9%)

※主として「活用」に関する問題は全国の平均正答率を100とした場合の本市の相対値は101であった。導き出した答えについて、その理由をノートに記述したり、友達に説明したりするという活動を行うことで成果を上げることができたと考えられる。

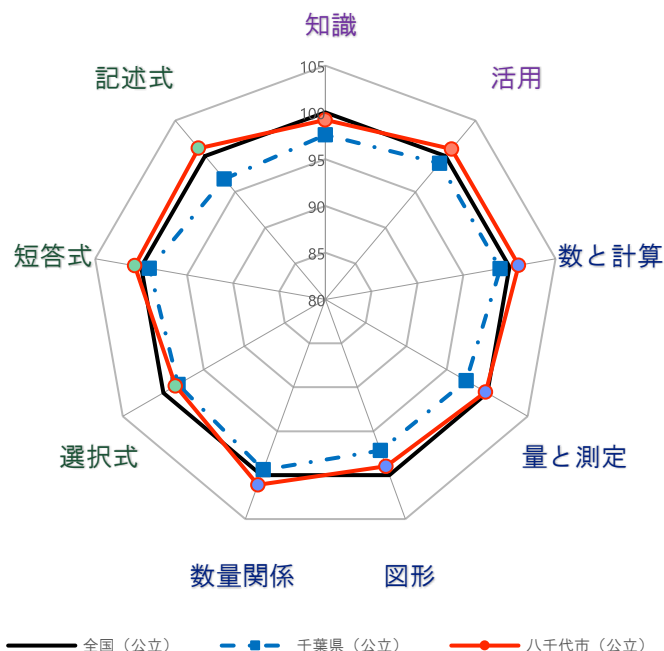
〈課題〉八千代市の児童が苦手とした主な問題

- 『数量の関係を理解し、その関係を数直線上に表すことができる』(58.1%－66.7%)
- 『文章で書かれている情報とグラフを関連付け、必要な情報を収集し考察することができる』(18.3%－20.7%)

※「数量の関係を数直線に表す」、「単位量当たりの大きさをもとめる」、「分度器を用いて角の大きさを求める」など、主として「知識」に関する問題に課題がみられる。

小学校	八千代市	全国
算数 A	63	64
算数 B	52	52

※表内の数字は小数第1位を四捨五入した平均正答率
全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値



中学校・数学

〈成果〉八千代市の生徒がよくできた問題

- 『ひし形は、線対称な図形であり、点对称でもあることを理解している』(70.9%－67.1%)
- 『証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる』(57.5%－55.4%)

※「記述式」で解答する設問は、全国の平均正答率と同じであり、特に理由を説明する問題については全国と比較し高い割合であった。授業の中で、解答の導き方を筋道立てて説明しあう機会を取り入れていることが成果として表れている。

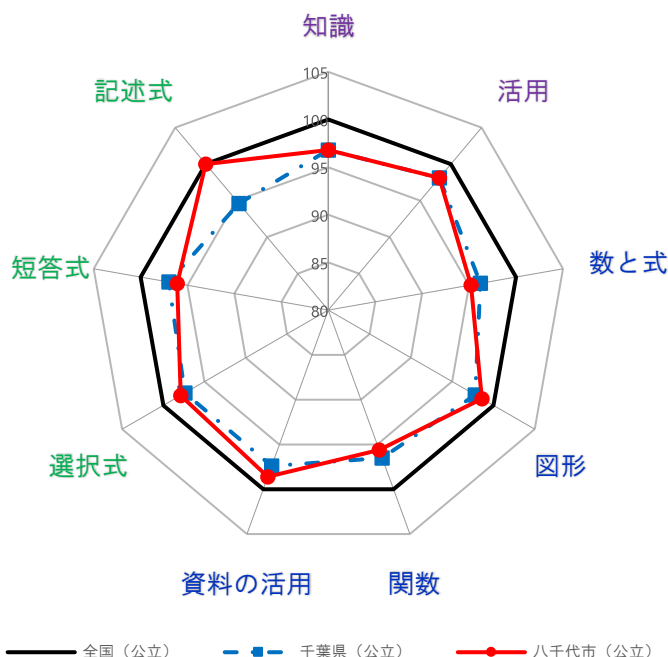
〈課題〉八千代市の生徒が苦手とした主な問題

- 『四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の何倍かを理解している』(49.5%－57.6%)
- 『一次関数 $y=ax+b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している』(49.5%－56.3%)

※数学A（主として「知識」に関する問題）は、全国の平均正答率を100とした場合の本市の相対値は96.8であり、特に『数と式』、『関数』に課題がみられる。

中学校	八千代市	全国
数学 A	62	65
数学 B	47	48

※表内の数字は小数第1位を四捨五入した平均正答率
全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値



小学校・理科

〈成果〉八千代市の児童がよくできた問題

- ・『物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる』（47.6%－42.7%）
- ・『調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる』（79.9%－76.2%）

※「問題形式」では、記述式が良好だった。

※共通点や差異点に注目したり、予想と結果を関係付けたりして考察する学習場面を設定することで、「主として活用に関する問題」の成果をあげていると考えられる。

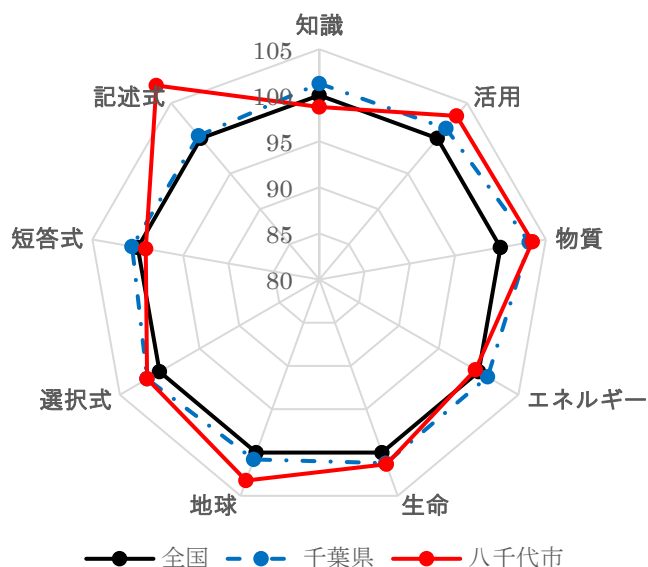
〈課題〉八千代市の児童が苦手とした主な問題

- ・『堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している』（80.8%－83.6%）
- ・『乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる』（57.3%－63.5%）

※主として「知識」に関する問題は、全国平均正答率を100とした場合、本市の相対値は98.7であり、基礎的な知識の定着に課題がみられる。

小学校	八千代市	全国
理科	61	60

※表内の数字は小数第1位を四捨五入した平均正答率
全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値



中学校・理科

〈成果〉八千代市の生徒がよくできた問題

- ・『風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる』（39.4%－37.5%）
- ・『電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている』（72.4%－70.5%）

※主として「活用」に関する問題は、全国の平均正答率を100とした場合の本市の相対値は98.6であった。実生活における事象との関連を図った授業を行った成果と考えられる。

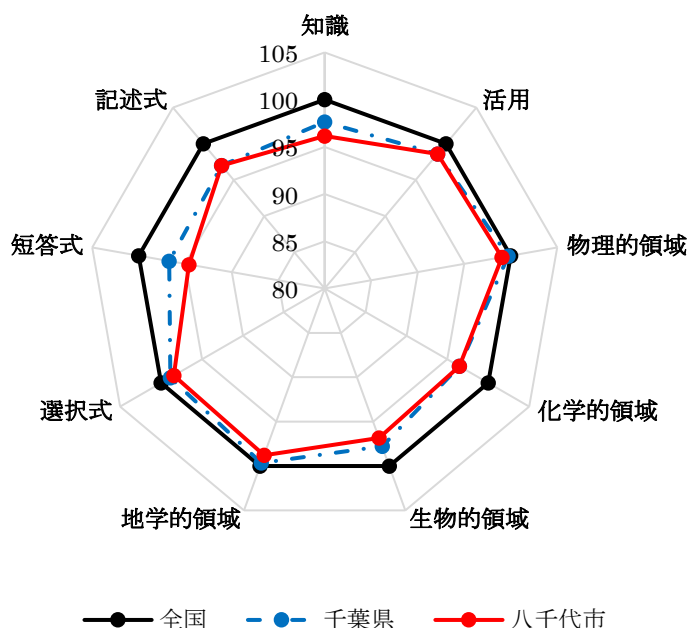
〈課題〉八千代市の生徒が苦手とした主な問題

- ・『神経の働きについての知識を身に付けている』（48.5%－57.2%）
- ・『化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる』（42.8%－49.4%）

※主として「知識」に関する問題は、全国平均正答率を100とした場合の本市の相対値は95.7であった。生物や化学の基礎的な知識の定着に課題がみられる。

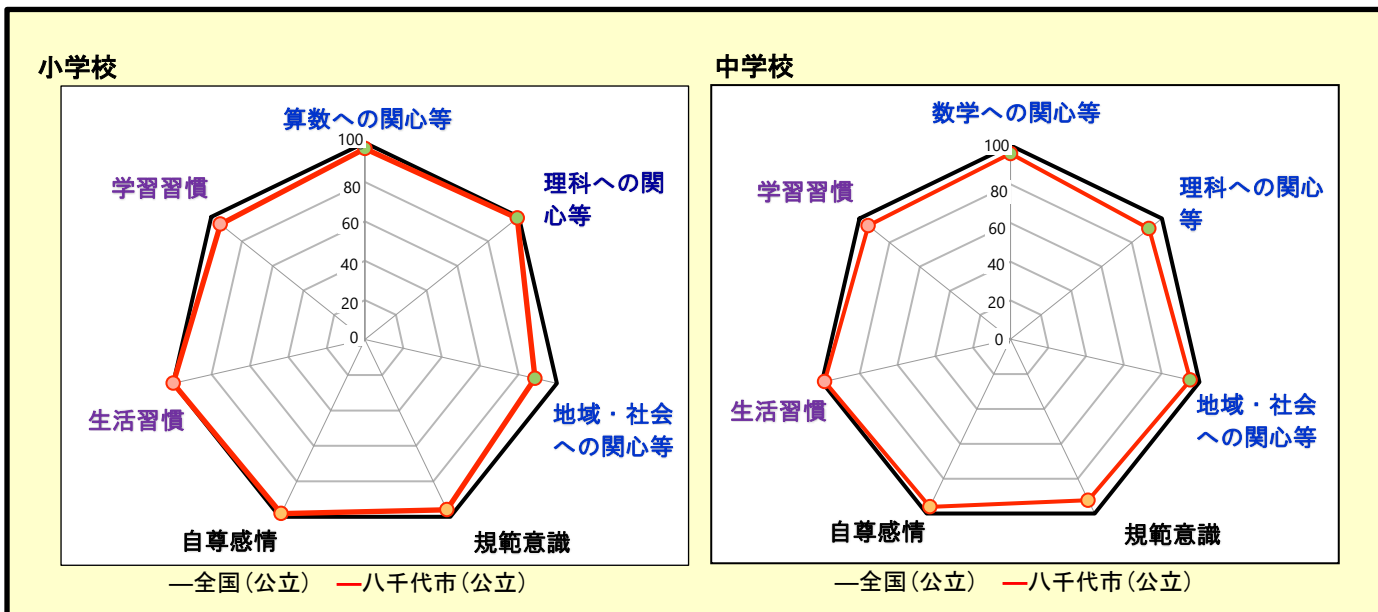
中学校	八千代市	全国
理科	65	66

※表内の数字は小数第1位を四捨五入した平均正答率
全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値



児童生徒の意識調査

全国（公立）を標準偏差 100 とした場合の相対値



「児童・生徒質問紙調査」の結果の概要（小中学校）※抜粋

*文末の()内は、「肯定的回答率(本市—全国)」を表す

〈学習に対する関心・意欲・態度〉

- 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。【30分以上】」
小学校 (47.3%—41.1%) 中学校 (34.5%—30.9%)
- 「これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、工夫して発表しましたか。」
小学校 (60.4%—61.0%) 中学校 (56.7%—53.8%)
- 「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。」
小学校 (55.5%—54.4%) 中学校 (46.9%—41.4%)
- 「理科の勉強は好きですか。」
小学校 (86.7%—83.5%) 中学校 (60.4%—62.9%)
- 「授業などで地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会がありましたか。」
小学校 (64.1%—74.4%) 中学校 (59.4%—68.7%)
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」
小学校 (47.5%—62.7%) 中学校 (38.3%—45.6%)

※教科の関心・意欲・態度に関わる質問について、読書に関する意欲は小中学校共に全国平均より高い。

※授業の中で自分の考えをまわりに伝えることは、小学校で全国平均と同程度であるが、中学校では全国平均より高い。

※理科に関わる質問については、小学校では全国平均よりも高い項目が多いが、中学校では全国平均より低い項目がある。

※地域・社会に関する興味・関心は、小中学校共に全国平均より低い。

〈規範意識・自尊感情〉

- 「学校の決まりは守っていますか。」 小学校 (90.3%—89.5%) 中学校 (94.0%—95.1%)
- 「将来の夢や目標を持っていますか。」 小学校 (84.7%—85.1%) 中学校 (71.8%—72.4%)

※規範意識に関わる質問については、小中学校共に、どの項目も全国平均と同程度であり、高い水準を保っている。

※自尊感情に関わる質問については、小中学校共に、どの項目も全国平均と同程度である。

〈学習の基盤となる活動・習慣〉

- 「朝食を毎日食べていますか。」 小学校 (93.6%—94.5%) 中学校 (88.7%—91.9%)
- 「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。」 小学校 (78.6%—77.0%) 中学校 (74.7%—74.2%)
- 「毎日同じくらいの時刻に起きていますか。」 小学校 (87.5%—88.8%) 中学校 (90.4%—90.3%)
- 「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。」 小学校 (58.7%—62.6%) 中学校 (52.7%—55.2%)

※生活習慣に関わる質問については、小中学校共に、どの項目も全国平均と同程度である。中学校は朝食を毎日食べていると答えた生徒の割合が全国平均より低い。

※家庭での学習に関わる質問については、全国平均と同程度である。「授業の予習・復習」に関しては、小中学校共に、全国平均より低い。